

つながりの中でくらす
望まれた人として生きる
自分らしく生きていく



No. 82

2024年11月発行

10月下旬に元明治学院大学社会福祉学科教授の中野敏子さんが、ほうぷを訪問してくださいました。中野さんとの出会いは、2007年10月に開催された NPO 法人「出発のなかまの会」主催の「知的障害のある人が『自分らしく生きる』地域生活支援セミナー」でした。そこで「アクティブサポート」をテーマにした中野さんの講演を聴きました。セミナー後、「出発のなかまの会」の代表であった月川さんに中野さんを紹介されました。それ以来、ほうぷの賛助会員として応援してくださっています。

当日は、放デイの様子を見学していただき、その後、当法人の社員たちを交えて、懇親会をもち、中野さんともども職員や社員と意見交換をしました。中野さんが、障害者は風船の中において、その風船が地域を漂っているだけのおっしゃり、地域の中で「地域」を共有できているかと言えば、そうではなく、障害者と出会うことなく暮らしている人がたくさん地域に居ることも課題だともおっしゃいました。教育現場の話もいろいろと出て、関東と関西の教育や障害児者の暮らしの違いを感じられたひと時でした。

17年前に中野さんに依頼されて私が書いた「リハビリテーション研究」の原稿を思い返しました。「重度・重複障害の子どもたちと学齢期の支援～暮らしの視点からの支援～」というタイトルで、私の個人的な体験、娘が産まれてから中学校まで(娘は当時中学2年生)を踏まえて書いたものです。その中で私は、「縦割り行政の中で、専門職的な視点だけで作られてきた支援体制が、障害児とされる子どもたちの暮らしを制限し、人生をぶつ切りにしてきたのです。子どもの機能面だけをとらえた訓練や教育、生活から切り出す医療ではなく、子どもの生活を支えるための総合的な支援が必要です。」「子ども本人を真ん中において、ひとりの子どもとして地域であたりまえに暮らしていくという生活の視点からの地域支援が軸となり、教育と医療と福祉が連携をしていくことが大切なのです。」と書いています。

中野さんの来訪は、共に暮らす地域づくりについて改めて考える時間となりました。中野さんは、現在は、「みんなち・みつ蛸」という「たまり場」を設立して活動をしておられます。後日、お礼のはがきが届きました。スタッフたちが、こんな素敵なのはがきを書ける人になりたいと言っていました。

「教育と医療と福祉が地域を共有して繋がっていく」ことを今でも訴えて、地域の繋がりの中で活動していますが、なかなかその体制ができません。みなさんも一緒に考えてみてください。
(地域生活サポートネットほうぷ 向井裕子)



2024年度 事業所自己評価と保護者アンケート結果報告

〈 楽童ほうぶ 〉 自己評価表

2024年10月

P. 1

	チェック項目	評価				改善目標や工夫している点
		はい	いいえ			
体制・環境	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか。	4	3	2	1	
	2 職員の配置数は適切か	4	3	2	1	
	3 事業所の設備についてバリアフリー化の配慮がされているか	4	3	2	1	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	4	3	2	1	計画・実践・振り返り・改善を職員が広く参加し行っている。
	5 保護者向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向を把握し、業務改善に繋げているか	4	3	2	1	保護者向け満足度調査(アンケート)を毎年実施し、改善を行っている。
	6 この自己評価の結果を法人の会報やホームページ等で公開しているか	4	3	2	1	ホームページにて公開
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	4	3	2	1	第三者評価は実施していないが、外部委員で構成する運営委員会を設置し、改善につなげている。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	4	3	2	1	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、支援計画を作成しているか	4	3	2	1	
	10 支援計画の内容を職員が共有し、日々の支援に役立てる工夫をしているか	4	3	2	1	毎週と毎朝の職員ミーティングで情報共有と支援内容の工夫・確認などを行っている。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っているか	4	3	2	1	毎週、職員ミーティングを開催して行っている。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	4	3	2	1	毎週、職員ミーティングを開催して行っている。
	13 平日、土曜日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	4	3	2	1	毎週、職員ミーティングを開催して行っている。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて支援計画を作成しているか	4	3	2	1	
	15 支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	4	3	2	1	毎朝、職員ミーティングを開催し、情報の共有と確認をしている。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	4	3	2	1	毎夕、パート職員と振り返りを行い、翌朝の職員ミーティングで共有している。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	4	3	2	1	個別に配布する活動記録と日報にて記録をしている。
	18 定期的にモニタリングを行い、支援計画の見直しの必要性を判断しているか	4	3	2	1	
法人理念に沿った活動	19 自立支援と日常生活の充実のための活動・創作活動・地域交流の機会の提供・余暇の提供を組み合わせ支援を行っているか	4	3	2	1	
	20 こどもの将来に向けて、こどもの体験を増やす活動に計画的に取り組んでいるか	4	3	2	1	こどもILPにて取り組んでいるとともに、日々の活動で意識的に行っている。
	21 こどもの自己肯定感をはぐくむ取り組みをしているか	4	3	2	1	
	22 地域に開かれた事業所運営を行い、地域住民や関係機関と連携し、地域社会の一員として育つ取り組みをしているか	4	3	2	1	地域活動協議会や自立支援協議会に参加し地域行事の参加やほうぶ商店開催なども実施している。

	チェック項目	評価				改善目標や工夫している点
		はい	いいえ			
関係機関や保護者との連携	23 学校との情報共有(行事予定の交換や下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時やトラブル発生時の連絡等)を適切に行っているか	4	3	2	1	トラブルの発生や確認など、学校と連絡を取り合っている。
	24 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	4	3	2	1	保護者のアセスメントや相談支援事業所との情報共有で終わっている。
	25 学校を卒業し、障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	4	3	2	1	ワタシ×ミライワークショップの開催等を実施して、情報を共有する場を作っている。
	26 発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	4	3	2	1	エルムおおさかに研修を依頼したり、助言を受けたりしている。
	27 地域の中で障害のない子どもと活動する機会があるか	4	3	2	1	近隣の公園で一緒に遊んだり、イベントに小学校区の子どもたちが来たりしている。
	28 地域自立支援協議会や地域活動協議会に参加しているか	4	3	2	1	自立支援協議会の本会、こども部会、事業所連絡会に参加。地域活動協議会の福祉部会委員。
	29 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	4	3	2	1	
	30 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者等に対してペアレントトレーニング等の支援を行っているか	4	3	2	1	ペアレントトレーニングは実施していないが、保護者向け研修会は実施。
	31 運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	4	3	2	1	
	32 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	4	3	2	1	保護者への面談アンケートを隔月で配布するなどして、相談しやすい環境をつくっていく
保護者への説明責任	33 保護者会や保護者研修会を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	4	3	2	1	研修会や交流会を開催したが、参加者が少ない。ほうぶ商店などのイベント時、各々が交流されている。
	34 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	4	3	2	1	毎週、職員ミーティングを開催し、保護者からの訴えやヒヤリハットなど話し合いをしている。
	35 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に発信しているか	4	3	2	1	毎月、楽童ほうぶだよりを保護者に向けて発行し、3か月に1回法人会報を広く発行している。
	36 個人情報の取り扱いに十分注意しているか	4	3	2	1	より取り扱いに注意をする必要がある。
	37 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	4	3	2	1	視覚支援等を使って行っている。
非常時等対応	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対策マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	4	3	2	1	定期的なマニュアルの見直しを実施し、「子どもの安心安全のための対応マニュアル」を保護者に配布。
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難・救出、その他必要な訓練を行っているか	4	3	2	1	定期的に避難訓練を実施
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	4	3	2	1	
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、支援計画に記載しているか	4	3	2	1	
	42 食物アレルギーのある子どもについて、おやつや調理などの対応がされているか	4	3	2	1	再度、おやつに関してのチェック方法の職員間の共有をはかる
	43 ヒヤリハット報告書を作成し、事業所内で共有し、事故等の防止に努めているか	4	3	2	1	毎週の職員ミーティングで共有し、定期開催の虐待防止委員会でも報告しアドバイスをもらっている。

保護者からのご意見(概要)

子どもが楽しみにしていて、カレンダーの利用予定日を指さして、「ほうぷ」と毎日言っています。子どもがのびのびと過ごせる環境を提供してくださって本当にうれしいです。
日頃、お休みの日のクッキングがとても楽しいようで、家でも炒めたり切ったり、よくお手伝いしてくれるようになりました。
いつも通うのを楽しみにしています。学校の通級などで認知などのトレーニング(プリントや身体を動かしたり、ゲーム等)をしていますが、そういうものを取り入れてもらえたら良いかなと思っています。運動も好きなので、外遊びやルールのあるスポーツ的なこともやっていただけると良いなと思います。
放課後に過ごす場所だけでなく、今年の夏休みは、事前に夏休みのスケジュールも組まれており、長い夏休み、いろいろな工夫をされ、また、たくさん体験、経験をさせていただきました。
ほうぷさんは地域交流、活動されており、学校との連携もしてくださっており、安心して利用できています。何より子どもが通うのを楽しみにしているのが一番です。家庭以外に「ただいま」と言って帰れる場所があることが素晴らしいです。個別懇談も、子どもの利用日の時間帯など負担のないようにしていただいています。

保護者アンケートの結果に対する楽童ほうぷからの反省や感想として

「②職員の配置数や専門性」について、職員の配置数は、常勤の児童指導員3名で、制度上の配置は満たしていますが、昨年から今年にかけて職員数が減少したため、保護者の方々にご心配をおかけしていると思います。できるだけ早急に体制の強化を図ります。専門性に関しては、常勤職員は社会福祉士・小学校教員免許・公認心理師ですが、より支援の質を向上させるため、研修やミーティングで子ども理解の共有や支援内容の話し合いを行っています。

「⑤平日の活動」について、昨年下半年から毎朝のミーティングで、支援計画をもとに子どもへの対応や活動内容を共有してきました。加えて、今年度は平日の活動内容の改善を図ってきましたが、保護者の方々への周知と理解が十分にできていなかったようです。毎月、日々の活動内容を企画し、朝のミーティングで、その日の来所の子どもの構成から活動内容を検討し取り組んできました。今後、この取り組みをより機能させ、保護者に分かりやすく報告していきます。

「⑦地域との交流」については、ほうぷ商店の定期的な開催等、地域交流できるイベントが浸透してきました。「⑧学校や福祉サービス事業所との連携」については、必要に応じて学校や他の放デイと情報共有を行っています。保護者のご希望や学校により偏りがあります。

「保護者への対応」について、保護者面談の回数は増えている一方で、保護者の方々の思いや悩みをお伺いし共通理解を深め一緒に考えていくことが十分にできていなかったと思います。「⑬苦情対応」については、迅速に職員間での情報共有と検討を行い、虐待防止委員会や運営委員会で報告し委員に助言をいただいています。また、虐待防止委員会では、毎回、ヒヤリハットの報告と助言をいただいています。今後、これまで以上に保護者への対応をより丁寧に行い、満足していただけるように努めます。

「⑩子どもが通うのを楽しみにしているか」「⑭事業所の支援内容に満足しているか」について、満足度が高かったことは、職員の努力の成果だと思っています。ただ、十分には満足しておられない方もいらっしゃいますので、日々の活動を丁寧に積み重ね、子どもたちがいきいきと過ごすことができ、保護者の方々にも評価していただけるよう、職員一同、取り組んでいきます。



放課後等デイサービス「楽童ほうぷ」報告

いつまでも残暑が続く秋でした。9月には防災の取り組みをしました。10月は、季節的に感染症対策を目的に「からだの話」のグループワークや、ほうぷ商店の開店をしました。11月はようやく公園遊びが楽しめる気候になりました。ほうぷでのケガ防止を目的に、危険に気づいたり気をつけたりできるように、「危険」についてのグループワークをしました。公共交通機関を使って遠足にも行きました。

また、毎月、音楽療法を学ぶ大学生が音楽活動のボランティアに来てくれました。楽器やダンスで盛り上がりました。創作活動も、プラバン、お菓子作り、革細工、ほうぷ商店の商品づくり等、いろいろ取り組みました。

避難訓練

9月28日(土) 14:30~15:30 参加者:こども8名 ボランティア3名
子どもたちが興味を持って参加してくれるような訓練にしようと、まずは防災クイズをし、次に、避難する時に何を持って行くかを話し合ってもらいました。避難時の持ち出しセットを考えてもらうということではなく、それぞれの考えを発表してもらい、受けとめ合いました。発表を聞いて、それぞれの子どもが大切と思っているものが見えました。



ほうぷ商店

10月26日(土) 14:00~15:30 参加者:こども8名 社会人ボランティア4名
恒例のほうぷ商店。子どもたちが大好きな駄菓子コーナー、かわいい作品が並ぶ手作り雑貨コーナー、革キーホルダー作りの体験コーナーの3つのコーナーを作りました。ほうぷの子どもたちのご家族や友達、近くの小学校の子どもたちや親子連れなど、たくさんのお客さんが来ていただきました。ほうぷの子どもたちは、お店番を頑張っていました。



大阪市立科学館に遠足

11月16日(土) 10:00~17:00 参加者:こども6名 ボランティア6名
大阪メトロを乗り継いで大阪市立科学館に行きました。チケットを買ったり乗車証で改札を通ったりする練習もしました。大学生のお兄さんやお姉さんとペアになって、プラネタリウムを見たり館内の体験を楽しんだりしてきました。



● 法人内の活動報告 ●

- 9月20日(火) ほうぶよるカフェ
- 9月24-25日 職員研修「児童発達支援管理責任者基礎研修」
- 9月28-29日 新入職員研修 喀痰吸引3号研修受講
- 10月 2日(水) 虐待防止委員会
- 10月18日(月) ほうぶよるカフェ
- 10月20日(日) おやこひろばほうぶ
- 10月23日(水) 中野敏子さんを囲む会
- 10月24日(木) 集団指導(放デイ・相談)受講
- 11月 9日(土) 職員研修「フルインクルーシブ教育と当事者研究の将来」ラルゲット主催
- 11月15日(金) ほうぶよるカフェ

● 地域活動報告 ●

- 9月 6日(金) 旭区子育て支援「あさひの輪」定例会(旭区社会福祉協議会)
- 9月10日(火) ブックスタート(ほうぶ)
- 9月18日(水) 旭区地域自立支援協議会 本会(旭区役所)
- 9月20日(金) 清水地域子育てネットワーク会議(清水小)
- 9月25日(木) 清水地域活動協議会 地域福祉部会(ほうぶ)
- 10月10日(木) 旭区地域福祉計画会議 児童部会(旭区役所)
- 10月16日(水) 子育てわいわい広場(旭区民センター)
旭区地域自立支援協議会 事業所連絡会(児童)(旭区役所)
- 10月19日(土) 子ども情報研究センター理事会
- 10月29日(火) 旭区子育て支援キッズネット定例会(旭区民センター)
- 11月12日(火) ブックスタート(ほうぶ)
- 11月19日(火) 清水地域異世代交流事業「みんなの音楽会」(地域交流センター)
- 11月20日(水) 旭区地域自立支援協議会 本会(旭区役所)

9月26日の朝、牧ローニさんが亡くなられました。当法人の会報81号を投函した翌日でした。牧口さんに20周年のお知らせが届くことなく逝ってしまわれました。牧口さんの会社「おばけ箱」に当法人のロゴマークを作っていただきました。種から芽が出て花が咲く、マル・デコボコ・ギザギザ、いろんな形があっていい、いろんな形に変わっていく、そんな思いを込めて作っていただきました。当法人の会報をカラー印刷してきたのは、牧口さんのご意見で、このロゴマークを白黒でなくカラーで印刷したかったからです。

告別式に参加し、友人とともに涙で送りました。昨年夏、森ノ宮駅の近くのスーパーで偶然にお会いした時、「食欲がない」と言っておられたのを思い出し、もっといろいろとお話を聞きたかったと思いました。優しく温かくて、時に鋭い言葉を発せられ、たくさんのことを教えていただきました。

10月には障害児教育で大きな存在であった弁護士の大谷恭子さんが亡くなられました。偉大な方々を失ってしまいました。本当にありがとうございました。ゆっくりお休みください。(む)

